

大腸癌研究会プロジェクト
『若年者大腸癌の全国データベース構築と臨床病理学的特徴および
治療効果の検討』

第5回会議 議事録

2026年1月22日

浜松町コンベンションセンター 第3会場 (5F 大ホール B) およびオンライン

■出席者（敬称略）

- 委員長 日本医科大学消化器外科：山田岳史
- 事務局 がん研有明病院消化器化学療法科：篠崎英司、日本医科大学消化器肝臓内科：秋元直彦、日本医科大学消化器外科：横山康行
- 出席委員（50音順）：
池松弘朗(東京大学医科学研究所)、石田秀行(埼玉医科大学総合医療センター)、石丸啓(愛媛大学)、牛込充則(東邦大学大森医療センター)、江藤成伸(東京大学)、遠藤俊吾(福島県立医大会津医療センター)、大内晶(愛知県がんセンター)、太田竜(日本医科大学武蔵小杉病院)、小野智之(東北大学)、母里淑子(埼玉医科大学総合医療センター)、河村英恭(総合南東北病院)、小杉千弘(帝京大学ちば総合医療センター)、小林宏寿(帝京大学医学部附属溝口病院)、澤田亮一(東京慈恵会医科大学)、島田能史(新潟大学)、須藤剛(山形県立中央病院)、諏訪雄亮(横浜市立大学附属市民総合医療センター)、虫明寛行(済生会横浜市南部病院)、高雄美里(都立駒込病院)、竹下恵美子(獨協医科大学埼玉医療センター)、問山裕二(三重大学)、平田敬治(産業医科大学)、廣川高久(刈谷豊田総合病院)、深瀬正彦(山形県立中央病院)、藤吉健司(久留米大学)、水内祐介(九州大学)、八尾隆史(順天堂大学)、山口達郎(都立駒込病院)、山本聖一郎(東海大学)、
- オブザーバー：現地参加 21名+オンライン 5名

■会議内容

プロジェクト研究の現状に関して

山田委員長から

- プロジェクト研究の進捗状況を説明。
- 参加施設数: 70施設が参加意思を表明、36施設からCRFを受領
前回（半年前）の20施設から16施設増加
 - 上位登録5施設: 日本医大、都立駒込病院、東京大学、愛知県がんセンター、大阪大学
 - 地域分布: 北海道・東北、山陰地方、南九州からの登録がまだない状況
 - 症例数: 約3,900例で全体解析を実施予定

暫定的な集計結果の報告

患者背景:

男女比: 若年者では男性と女性がほぼ1対1

年齢分布: 20代 4%、30代 20%、40代 76%

20代症例: 139例（今後、組織解析予定）

臨床的特徴:

有症状割合: 20代 86%、30代 61%、40代 55%（若年ほど症状出現後の受診が多い）

糖尿病 5%、脂質異常症 4%

BMI: 低体重（18.5未満）16%、高度肥満（30以上）19%

腫瘍部位:

直腸 47%、S状結腸 27%、下行結腸 5%

20代では横行結腸の割合が増える（Lynch症候群が混ざっている可能性）。

進行度 Stage III+IVで 55%

今後の予定に関して

解析スケジュール:

- 現在の症例数で全体解析を開始
外科チーム、内科・内視鏡チーム、化学療法チームに分けて専門分野別解析を実施
- 年内完了を目標

研究テーマ設定:

日本医科大学含む上位5施設（都立駒込病院、東京大学、愛知がんセンター、大阪大学）に研究テーマ提案を依頼

4月までに提案を受けつけ

それ以降は、適宜参加ご施設から研究案を募集

20代症例の特別解析のために、組織ブロックの提供を依頼。愛媛大学、東京大学医科学研究所、横浜市民総合医療センター、福島県立医大愛知医療センター、関西医科大学、がん研究会有明病院、岐阜大学、久留米大学、九州大学、熊本大学、広島大学、香川大学、済生会横浜市南部病院、埼玉医科大学総合医療センター、三重大学、山形県立中央病院、山梨大学、新潟大学、大阪大学、獨協医科大学埼玉医療センター、日本医科大学武蔵小杉病院、防衛医科大学校、杏林大学、刈谷豊田総合病院、産業医科大学、滋賀医科大学、聖マリアンナ医科大学、都立駒込病院、東京大学、東邦大学大森病院、藤田医科大学、日本医科大学に検体提出のためのお願いをする。

- 事務局: 北海道・東北・山陰・南九州地域の施設への参加呼びかけ
- 上位5施設: 4月までに研究テーマの提案
- 20代症例登録施設: 組織ブロックの提供検討

• CRFをまだご提出いただいていない施設は随時受付いたしますが、最初の全体解析には含めず、今研究会までのCRFで締め切らせていただいています。

以上